記　入　日　　2016 年 1 月 15 日

1．概　要

実践団体名	NPO 法人ふるさと未来創造堂		
連絡先	担当者：常務理事兼事務局長　中野　雅嗣		
プランタイトル	みんなで支えるBOUSAI 教育！地域一体の共育社会の再建 2015		
プランの対象者※1	２・３・４・５・６・１０	**対象とする災害種別**※2	7

※1　別紙「記入上の留意点」の1．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※2　別紙「記入上の留意点」の2．項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

① 学校現場における防災教育の実践にともなう教員の負担軽減と防災教育の推進・定着
② 防災教育実践のノウハウを学校と地域に蓄積させ、属人的では無く、持続可能な仕組みづくり
③ 持続可能な仕組みを支える、ノウハウを継承した地域に居住する防災教育コーディネーターの育成を視野に入れたツールや手法の検討

【プランの概要】

・学校が主体となり、持続可能な地域と連携した防災教育の推進の弊害になる要因とニーズの整理
・第三者が仲介することによる連携事例から、コーディネーターの必要性についての検証・確認
・防災教育の調整役となるコーディネーターに求められるスキルとマインドの整理
・防災教育コーディネーターを育成するための研修ツールの開発

【期待される効果・ここがおすすめ！】

・これから学校における防災教育のサポーターになる。あるいはなりたいと考えている方が、地域に根差し、教育効果を高める学習機会を企画・提案、コーディネートやサポートをする際の参考資料として役立つ実践事例集です。
・学校と地域のつながりをつくっていく、または関係性をより深めるきっかけとして、防災教育を題材にしたいと考えている方にお勧めします。地域一体での教育活動の活性化＝地域力 UP＝OUTCOME として地域防災力の向上を考える際の参考になれば幸いです。

２．プランの年間活動記録（2015 年度）

	プランの立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	新潟県内の学校・地域のヒアリング		・小・中学校及び地域にヒアリング（通年で全県の小・中学校の防災教育実践のサポート。）
5 月	モデル地区選定	ヒアリング結果及びニーズ整理	・ヒアリング結果にもとづき、モデル地区（学校・地域）を選定
6 月		学校と地域が連携した持続しており防災教育の事例分析	・モデル地区（学校・地域）におけるコーディネート実践
7 月	①社会教育主事・公民館主事を対象とした OJT 研修	コーディネーター育成プログラム・教材等の検討	・公民館での避難所生活体験プログラムの計画サポートと実践
8 月	専門家ヒアリング、②防災士取得希望者への研修	研修や講座受講者のアンケートの整理・分析	・群馬大学大学院理工学府広域首都圏防災研究センター金井先生に全国の仲介役によるサポート事例を相談
9 月		研修や講座受講者のアンケートの整理・分析	
10 月			
11 月	専門家ヒアリング	今年度の最終成果品の検討	・群馬大学大学院理工学府広域首都圏防災研究センター金井先生に、今年度の成果品について相談
12 月		防災士・教職員・防災関係の民間企業ヒアリング	・教育委員会と学校へ、防災教育の「御用聞き」的役割の防災士にできるサポートやニーズの確認・整理 ・企業と学校のマッチングと体験型学習プログラムの計画・提案
1 月	③地震ザブトンを導入した全校児童対象の体験学習	防災士ができる体験型防災学習メニューの整理	・学校における防災教育に関わりたい地域住民（防災士）との協議 ・企業とコラボした体験学習の実践
2 月	成果品作成		・学校と地域を防災教育でつなぐ、実践事例集の作成
3 月			

３．実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：　①　】※3

タイトル	社会教育主事・公民館主事を対象とした防災教育指導者 OJT 研修
実施月日（曜日）	平成 27 年 7 月 10 日（金）、7 月 29 日（水）
実施場所	新潟市鳥屋野地区公民館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏　　名：中野　雅嗣 所属・役職等：NPO 法人ふるさと未来創造堂　常務理事
所要時間または「コマ数×単位時間」	所要時間：打ち合わせ 2 時間（7 月 10 日）、実践 6 時間（7 月 29 日）
プログラムのカテゴリ、形式※4	1、13、17（社会教育現場での学習）
活動目的※5	9
達成目標	災害発生を想定して、仲間と協力して 1 日を過ごす
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①家出して野宿 1 泊をイメージさせて、1 日を過ごすために必要な物を持参させる（非常用持ち出し品に置き換える） ②グループを編成して、大災害が起こったときに起こることを知り、課題を明らかにする。 ③使えるものの工夫から、乗り越えるための方法を考え実践させる。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	人材：社会教育主事・公民館主事・地域教育コーディネーター 道具：段ボール、ガムテープ、ひも、はさみ、マッチ、カセットコンロ、缶詰食品、ビニールぶくろ、ティッシュ、飲料水のペットボトル等、日常生活で各家庭にあるもの
参加人数	36 人（内 7 人スタッフ）
経費の総額･内訳概要	現在積算中（車代及び高速代×２回分）
成果と課題	【成果】 ・体験プログラム例が出来上がり、次年度は今年度の OJT 研修対象者が講師になり、プログラムを実践予定 【課題】 ・防災に関する指導面と子どもの思考を引き出すスキル面はサポートが必要
成果物	7/30（水）イベント当日の活動プログラムとアンケート結果

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　②　】※3

タイトル	防災士取得希望者への防災教育サポーター研修
実施月日（曜日）	平成 27 年 8 月 29 日（土）
実施場所	新潟県長岡市　ながおか市民防災センター２F
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏　　名：中野　雅嗣 所属・役職等：NPO 法人ふるさと未来創造堂　常務理事
所要時間または「コマ数×単位時間」	所要時間：1 時間 30 分
プログラムのカテゴリ、形式※4	２
活動目的※5	１０（学校・地域における防災教育サポーターの育成）
達成目標	自分にできることを資源に、子ども向けのプログラムの検討
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①防災の分野で、自分にできることを細分化して整理させる。 ②４人１組のグループで、それぞれができることをシェアさせる。 ③グループのメンバーができることを組合せて、2 時間程度のストーリー性のあるプログラムを考えさせる。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	道具：自己分析用ワークシート、A３用紙数枚・プロッキー８色×グループ数分
参加人数	65 名
経費の総額･内訳概要	現在積算中（車代）
成果と課題	【成果】 ・防災士の取得を目指す人に対し、子ども向けのプログラムを考えさせることで、資格取得後に目指す各自の目標を持たせることができた。 【課題】 ・コーディネーターが介在し、プログラムの一部を担う語り部や体験学習の指導であれば活用の可能性はあるが、単独で学校に入る、指導を行えるようになるためには更に研修が必要
成果物	当日の研修プログラム・自己分析用ワークシート・アンケートの集計結果

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　③　】※3

タイトル	地震ザブトンを導入した全校児童対象の体験学習
実施月日（曜日）	平成 28 年 1 月 15 日（金）
実施場所	新潟市立升潟小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏　　名：中野　雅嗣 所属・役職等：NPO 法人ふるさと未来創造堂　常務理事
所要時間または「コマ数×単位時間」	３コマ×４０分（※短縮授業）
プログラムの　カテゴリ、形式※4	４、１１、１３
活動目的※5	８
達成目標	地震体験を通して、家庭内での危険箇所を確認し、事前にできる対策を家族と考える
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①地震発生時の危険回避の視点を思い出し，大きな地震を経験した人たちがどのように感じたかを伝える。 ②「地震ザブトン」を使って地震の揺れと室内の様子を映像と音で体験させる。（体験時にザブトンの動きと連動する映像に着目させ、家具固定のされている映像とされていない映像の地震を比較させ、室内での被害の違いに気付かせる。） ③家具固定の有効性を確認し、地震発生時の自分の家の中の危険性の確認と自分と家族の命を守るために話し合わせることを伝える。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	人材：地震ザブトンのオペレーター（白山工業株式会社の職員） 道具、材料：地震ザブトン×１、ワークシート、家庭の自助対策のチェックリスト（白山工業作成のパンフレット）
参加人数	107 名
経費の総額･内訳概要	現在積算中（打ち合わせ及び当日の車代、高速代）
成果と課題	【成果】 ・小学生の発達段階に応じた地震体験装置を活用した学習プログラムができた。学びをつなぐ体験の効果について、学校と共感することができた。 【課題】 ・体験装置を地方自治体が所有しているわけではないため、水平転換が現状は難しい。
成果物	地震体験装置を活用した指導計画・ワークシート

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

４．苦労した点・工夫した点

プランの立案と調整で苦労した点工夫した点	・これまでの学校と地域をつなぐ防災教育の実践に関する当法人の実践知を形式知に整理し、シミュレーションできるようなツールの作成を検討していたが、事例は本当に多様かつ多岐にわたり、非常に近い条件下で同様のアプローチをしたケースが功を奏した事例もあれば、そうでないケースもある。一定の条件・事例に対して、このようにすることで解決または良い方向に進みます、あるいは失敗するといった普遍的な解が存在するわけでは無いため、安易なシミュレーションツールがややもすると、ツールが独り歩きしたときには、防災教育に関わりたいと考える人に対して、誤った先入観と知識を植え付けてしまう可能性もある。シミュレーションツール開発は適切ではないと思ったとき、この事業を通じて当初の目的の達成に寄与する最終成果は何かを検討するのに大変悩みました。
準備活動で苦労した点工夫した点	・同上です。
実践に当たって苦労した点工夫した点	・細部のプログラム実践に関しては特にありません。 　ただ、教育委員会の多岐にわたる部局（学校教育・社会教育・生涯学習・高等学校教育・スポーツ振興・保育等）や行政の防災関連部局、地域団体、企業など様々な分野で「防災教育に取組みたい」「防災を通じた地域づくりを実施したい」「BCP を検討・作成したい」等の依頼が年々増加しており、その依頼に法人として全て対応するのが本当に難しい状況になってきているため、社内での人材育成を検討していきたいと考えています。

５．他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・同窓会組織	①新潟市黒埼南小学校 ②新潟市笠木小学校 ③新潟市鳥屋野地区公民館 ④新潟市立升潟小学校 ⑤新潟市教育委員会 ⑥新潟市西蒲区教育センター	①、②、③宿泊型避難所体験学習の運営サポート（OJT 研修） ④企業と連携した体験学習のモデル実践 ⑤、⑥管轄内の学校への情報提供
保護者・ＰＴＡの組織	①新潟市黒埼地域ふれあい協議会 ②新潟市笠木地域ふれあい協議会	①、②宿泊型避難所体験学習の運営サポート（OJT 研修）
地域組織	①新潟市西区社会福祉協議会 ②新潟市笠木地域コミュニティー協議会	①、②宿泊型避難所体験学習の運営サポート（OJT 研修）
国・地方公共団体・公共施設	①新潟市西区総務課 ②新潟市西消防署 ③新潟市西蒲区総務課	①、②宿泊型避難所体験学習の運営サポート ③企業と連携した体験学習のモデル実践の広報
企業・産業関連の組合等	白山工業株式会社	学校授業内での体験学習プログラムとして、民間ツールの提供（OJT 研修）
ボランティア団体・ＮＰＯ法人・ＮＧＯ等	①（公社）中越防災安全推進機構 ②（特活）新潟 NPO 協会	①防災士取得希望者を対象とした研修機会の調整 ②宿泊型避難所体験学習の運営サポート（OJT 研修）
職業、職能団体・学術組織、学会等	群馬大学理工学府広域首都圏防災研究センター	アドバイザー

６．成果と課題（実践したプラン全般について）

成果として得たこと	・今まで以上に様々な団体や企業等との連携を通じて、新しいチャンネルを開拓することができました。 ・防災教育実践時の伴走型の支援についても、防災教育を持続可能な取組みにしていくための有効な１つの手段と確信することができました。 　ノウハウが無いため、なにをどうすればよいかわからない。 　負担感から実践に至らない学校・地域の場合には特に有効で、双方の負担を軽減しつつ、実践者として企画・運営を行い、双方にノウハウを蓄積させていく→実践の効果を全体で共有する→徐々に学校・地域に主体の運営・企画に移行（アドバイザーとして関わる）→学校・地域が主体の取組として継続していく形は可能なことを確認することができました。
全体の反省・感想・課題	・人材育成ツールとして汎用性の高いものを作る難しさを認識しました。 　事例集であれば問題ないのですが、“人材育成ツール”としてしまうことで、独り歩きする可能性も考えられます。本来、解のないものに解があると誤解されかねないケースも考えられます。現段階で形にするのは非常にリスクが高いことを改めて認識しました。 　ですが、様々な分野のコーディネーター育成プログラムは多数存在しているため、防災教育をコーディネートする人材に求められる知識とスキルの整理と分析から試験的プログラムの実践と検証は、今後も継続して研究していきたいと思います。
今後の継続予定	・今後も防災教育の実践事例や研修等の試験的実践を積み上げ、効果検証を繰り返し、汎用性の高いモデルプランを創り上げていきます。

７．自由記述欄　※6

※6　自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守でお願いします。

防災士を対象に、新潟県の防災教育のサポーターとしてできることを考えてもらう際に使用したワークシート

平成 27 年 8 月 29 日/NPO 法人ふるさと未来創造堂

学校防災教育の推進のために、私にできること

受験番号＿＿＿　氏名＿＿＿＿＿＿

1．以下の防災教育に関する活動の中から、自分にできることに「○」印、できそうなことに「△」をつけてください。いずれもメインの対象は、小学生もしくは中学生の子どもです。

◎遊び・楽しみながらの防災			
	防災ゲーム	防災クッキング	防災グッズづくり
	音楽（唄）・ダンス	紙芝居	劇・寸劇
	自然体験（キャンプ等）	親子向けの防災講座	
	その他	【その他の内容】	
◎災害を想定した防災訓練や自発活動			
	避難訓練・児童の引渡し訓練	応急担架・応急手当	防災訓練（図上訓練等含む）
	初期消火訓練・放水訓練・バケツリレー	避難所の設営や体験訓練（図上訓練含む）	救助訓練 着衣泳
	避難行動要支援者のサポート・安否確認	炊き出し訓練・非常食づくり体験	家庭の家具固定方法や非常用持ち出し品の確認
	その他	【その他の内容】	
◎災害に強いまちづくり			
	過去の地域で発生した災害と被害を伝える	被災体験談を話す	地域内の危険箇所を伝える危険箇所の標識づくり
	学校の地域巡検（まち歩き）に同行指導	防犯防災マップ作成・防災ハンドブック作成	災害時の地域と学校の連携体制づくり
	過去の災害等の記録集・かべ新聞づくり	災害ボランティア 福祉ボランティア	義援金集め
	その他	【その他の内容】	
◎災害の疑似体験学習			
	地震体験車や煙体験ハウスの活用	各種実験により自然災害の現象を再現する	災害関連施設の紹介や案内・施設を活用した講座
	その他	【その他の内容】	
○いずれにも当てはまらないものがあれば記載			

平成 27 年 8 月 29 日/NPO 法人ふるさと未来創造堂

2．1で記載した、小・中学生の子どもに対して「自分にできること（○）」「自分にできそうなこと（△）」の中から、自分のやりたいことベスト3とその理由を以下の表に記載して下さい。

順位	やりたいこと	その理由
第1位		
第2位		
第3位		

3．グループで話し合います。

【個人用のメモ】

・防災士取得希望者への防災教育プログラムづくりワークショップの様子

（自由記述：　1／3）

・学校と民間企業をコーディネートした体験型防災学習の授業実践

（自由記述：２／３）

（自由記述：３／３）